

たまたれ

通巻 第40号



社殿幕股の彫刻「亀」

御 挨 拶

宮司 竹間 宗磨

四月二十八日より五月六日まで、平成の大修理事業完遂の慶びを、大神様と皆様とで分かち合いたいとの願いから奉祝祭を斎行させていただきました。奉祝祭中の四日間、「九州の舞と神楽」と題して、九州各地の神楽・舞等を、境内特設の舞台にて奉納戴きました。また奉賛者祈願祭では、此度の事業においてご奉賛いただいた全ての皆様にご案内をいたし、大修理事業完遂の奉告、奉賛者に対するさらなるご守護を祈願いたしました。

改めましてご協力、ご奉賛くださいました皆様、神楽・舞等奉納のご関係者、ご参列いただきました皆様へ心より御礼申し上げます。

就中、昭和の御代と平成の御代の御大典奉祝の、二つの由緒ある貴重な主基地方風俗舞を御奉納戴きました。昭和の御大典の風俗舞は高良大社とも非常に縁があり、この舞の神樂歌にて「ちはやぶる 高良の山の 神籠石欠けじ 崩れじ 御代にならひて」と歌われます。この神樂歌の如く、末永き弥栄と大神様の御神威の堅固ならんことを日々祈り、努めて参りたいと存じます。此度の大修理事業を通して御縁を結ばれました皆様に於かれましては、今後益々御神縁を深めていただき、幾久しくご繁榮なさりますよう念願致し、御挨拶とさせて戴きます。

たまたれ



茅の輪くぐり

茅の輪守



へこかき守



夏越大祓式



罪けがれを祓う

川渡祭(へこかき祭り)

【六月一日・二日】

川渡祭にお参りすると、昔から高良大神様の御神護を普段に増して授かると伝えられています。茅の輪をくぐり、御祈祷を受け、更なる幸福の縁に結ばれますよう御案内申し上げます。

茅の輪くぐり神事

六月一日・二日の両日、午前七時・十一時・十四時に、三日は十一時・十四時にお祓いを受け、神職とともに茅の輪をくぐり、心身を祓い清めて、無病息災を祈ります。

茅の輪は一日の午前七時のくぐり初めより終日、ご自由にくぐることができます。

川渡祭特別祈願

川渡祭には還暦・厄年は元より家内安全・諸願成就の祈願を受け付けております。

赤い肌物を身に着けて昇殿いただき、御祈祷を奉仕、特別祈祷札を授与致します。

○祈祷初穂料 五千円以上

六月中受付
川渡祭特別授与品
六月中限定授与

夏越大祓のご案内

【六月三十日】

平安時代からのわが国の伝統である大祓を受けて、家族そろって無病息災、暑い夏を乗り越えましょう。

大祓とは・・・

知らず識らずのうちに犯したであらう罪やあやまち、心身のけがれを祓い清めるための神事です。毎年六月と十二月の二回、その月の末日に行います（夏越大祓と年越）。平安時代初期の国家の法制書『延喜式』に記されており、古くから行われていたことがわかります。ひな祭りの原

形とされ、自分の罪けがれを移した「人形（形代）」を神事によってお祓いし、わが身の代わりにお清め致します。

当社においても伝統に則り大祓式を厳修致しております。どなたでも参列できます。

夏越大祓式
六月三十日 午後三時
○人形初穂料

※三千円以上のお納めには
大祓茅の輪守を授与します。
ご自由です

祭事報告

【月～月】

高良大社 平成の大修理事業 奉賛者 芳名

(平成十九年十一月一日より
三十一年五月十五日まで 敬称略・順不同)

匿名

・豊福商事株式会社
・株式会社みのう
・八尋 義伸
・山川本村区妙見神社
・西山 勢津子
・生田 征生
・蒲池 鎮光
・芦田 信昭
・廣田 智子
・清田 央軌
・追榮 幸子
・矢幡 勝利
・奥村 浩光
・河野 節子
・橋詰 幹夫
・大坪 正明
・中光 雅紀
・坂 健二
・小林 貴美
・匿名
・江浦 栄一郎
・鮫島 洋子
・手島 剛
・植村 千江
・中川路 由美子
・松枝 哲哉
・酒井 謙治
・シロキコーポレーション(株)
・白木 良彦
・高久 佳子
・薬師寺 文子
・華田 克則
・藤田 京佑
・竹村 みどり
・猿渡 啓
・古賀 真喜子
・古賀 美樹
・石橋 慶一
・中村 邦明
・古賀 薫未
・古賀 史子
・古賀 宏之
・稻員 信幸
・深町 重由
・黒川 幸治
・高田 正則
・有限会社アースビル
・株式会社シマブン
・株式会社ユーワッド
・大栄電通株式会社
・株式会社久留米クレーン工業
・森光 健輝生
・有限公司ケンテック
・株式会社ケンテック
・高良大社平成の大修理事業
奉賛者 芳名

○歳旦祭・初詣 正月

午前零時に新年を告げる太鼓が鳴り響き、多くの参拝者が神前に詰めかけました。本年は、平成の大修理完成後、初めての正月となり、新年の幸せを祈る多くの参拝者で賑わいました。

○玉簪祭 一月十四日

御祭神の御神徳の表れといわれる木製の「宝珠みくじ」授与で、各地の崇敬者の篤志をいただき、多くの参拝者で賑わいました。

○鏡開祭 一月二十一日

正月神前に供えた鏡餅を割り、ぜんざいとして参拝者にふるまいました。

○大学稻荷神社初午祭 二月初午

初午祭にあわせ、今年一年の運勢を表す粥占の結果を求める多くの参拝者で賑わいました。

○子日の松神事 二月四日

市内上津町の本山の松苗が、同地区の大人、子供達により古式ゆかしい装束姿にて運ばれ、境内に奉納植樹されました。

○紀元祭 二月十一日

建国を偲ぶ祝詞を奏上後、巫女による「浦安の舞」を奉奏し、皇室国家の御神事の安泰を祈りました。

○祈年祭 二月十七日

古代より農耕と共に歩んできた日本人にとって五穀豊穣を祈る重要な

お祭りです。農業はもとより、諸産業の生成発展をも併せ、参列者は実り多き年となるよう祈りました。

○愛宕神社春祭 四月一日

当日は、多くの参拝者で賑わいました。

○大学稻荷神社稻荷教春季大祭 四月六日

本年は、櫻の開花が早く当日は葉桜となってしまいましたが、多くの参拝者参列のもと、厳粛に斎行されました。

○琴平神社春季大祭 四月十日

高良山中腹の吉見嶽は、豊臣秀吉が陣を構えた戦国時代の要所です。本年は新緑の中での爽やかな祭典奉仕となり、直会では参拝者が楽しい一時を過ごしました。

○昭和祭 四月二十九日

昭和天皇の御聖徳を仰ぎ、国の繁栄を祈念致しました。併せて江戸千家久留米不白会による献茶式が奉納され、境内にて、参拝者に薄茶の接待が行われました。

○山川招魂社春季大祭 四月三十日

高良山の麓、茶臼山の山川招魂社にて春季大祭が斎行されました。

○平成の大修理奉祝祭 四月二十八日～五月六日

高良大社平成の大修理奉祝祭が九日間にわたり多くの参拝者に登拝いただき盛大に斎行されました。

たまたれ



当日の社頭



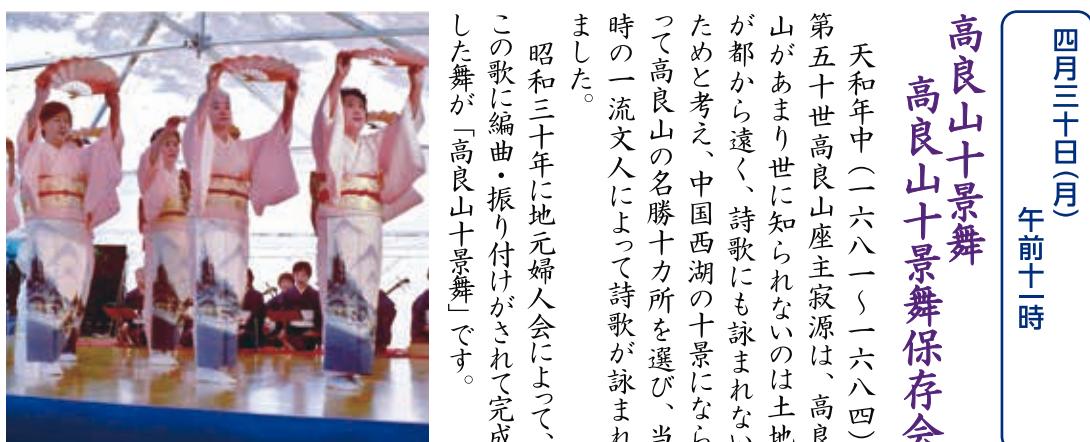
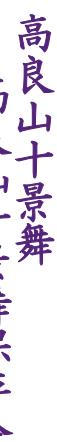
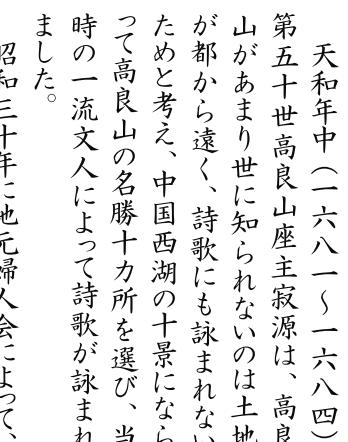
式神樂奉納



奉贊者祈願祭

風流
御井町風流保存会高良山獅子舞
高良山同志会四月二十九日(日)
午前十一時・午後一時

奉祝行事

高良山十景舞
高良山十景舞保存会高良山十景舞
高良山十景舞保存会四月三十日(月)
午前十一時高良山十景舞
高良山十景舞保存会

高良山同志会は百年以上にわたつて、高良山獅子舞を継承しています。御井町風流は古くから高良大社に奉納されてきた「田楽能」の伝統をひく芸能であり、平成十年に久留米市無形民俗文化財に指定されています。



平成三十年四月二十八日（土）より、五月六日（日）の九日間に亘りまして「高良大社平成の大修理事業」の完遂を祝う、奉祝祭が執り行われました。

高良大社は、ご社殿のお屋根替えを始め、斎館授与所の新設、ステップカーペットの設置、諸施設の改修により、装い新たな姿となりました。境内には、その慶びを胸に高良の神様のもとに足を運んだ大勢の参拝者の笑顔があふれました。

高良大社平成の大修理奉祝祭・奉贊者祈願祭が九日間に亘って執り行われ、平成の大修理事業にご奉賛いただいた多くの方にご参列戴き、皆様方のご健康とご多幸、益々のご繁栄を祈念いたしました。

昭和の御大典　主基地方風俗舞
主基地方風俗舞保存会
(宗像大社)

天皇陛下のご即位に奉祝奉納される「主基地方風俗舞」。

この度、昭和と平成のご即位に舞われた二つの主基地方風俗舞が、同じ日に奉納されました。

昭和の御大典主基地方風俗舞は、昭和三年、宮内省で作曲、作舞されたもので、全国に現存する貴重な神樂舞といわれ、宗像大社に伝承保存されて、大分県神社庁に習得・継承が許されています。



五月一日(水)
午前十一時

昭和の御大典　主基地方風俗舞
主基地方風俗舞保存会
(宗像大社)

されています。この歌の中に、「ちはやぶる　高良の山の
神籠石　かけじくづれじ」と高良山の神籠石のことが歌われています。
御代に　ならいて 御代に　ならいて
と高良山の神籠石のことが歌われて
います。



五月一日(水)
午後一時

平成の御大典　主基地方風俗舞
大分県神社庁



五月一日(水)
午後一時

中江岩戸神楽
中江岩戸神楽保存会

されました。宮内庁式部職楽部による指導を受け、平成二十二年より、主基斎田の地である玖珠町瀧神社の神前での奉納演奏が行われています。御代替わりに新作され殆んど再演されることが多く、民間に御下賜となつた二つの主基地方風俗舞の大変意義深い奉納となりました。



八雲 扃

中江岩戸神楽は約二五〇年前、江戸時代の明和の頃から今日まで伝わる神楽。日本神話「天の岩戸」の神事をもとにしており、「柴曳」という演目は、天の岩戸を開く前に、アメノコヤネノミコトが天の香具山の神を根こそぎに抜いて、岩戸の前に奉るというお神楽で、観客の掛け合いも賑やかに奉納されました。

「八雲払」という演目はヤマタノオロチ退治の物語。スサノオノミコトが大蛇を退治してクシナダヒメを助けて幸せに暮らすという内容で、退治した大蛇を持ち上げて見得を切る場面はまさに圧巻でした。

たまたれ

平戸神楽 平戸神楽振興会

五月三日(木)
午後三時



二弓

平戸神楽は江戸・元禄時代、古来から伝わる平戸の神楽を基礎に、松浦藩の家臣橋三喜が、諸国一ノ宮の神樂の粹を集めて完成させたのが「平戸神樂二十四番」であり、三五〇年もの伝統を誇り、昭和六十二年に国指定重要無形民俗文化財に指定されています。

奉納された演目の「二弓（にきゆう）」は、甲冑を着て弓矢を持って舞う悪靈退散を祈る神楽です。



二剣

「二剣（にけん）」は、三本舞・三本剣とも呼ばれ、祓いの神楽で、平戸神楽の代表的な舞の一つです。実際の真剣を使用するため、張り詰めた空気のもと参観者は固唾を飲んで見守りました。

「猿田彦（さるたひこ）」は、天孫降臨の際、猿田彦の神が道案内をする様子を演じた神楽です。



猿田彦

壱岐神楽 壱岐神楽保存会

五月三日(木)
午後五時

壱岐神楽は神職のみで奏される神楽です。壱岐の島では神社のお祭りでは必ずといっていいほど神楽が奉納され、神職によってその伝統の技を守り伝えています。壱岐神楽の起源は今から六五〇年以上前の南北朝時代とも言われ、昭和六十二年には国の重要無形民俗文化財に指定され、壱岐の神職で構成される「壱岐神楽保存会」によって伝承されています。



四本幣

「四本幣（しほんべい）」は、採り物を神聖視し、神職の手にした幣の紙垂の音に神秘な神の声を聴こうとする信仰が窺われる舞です。



豊年舞



八咫烏

「豊年舞（ほうねんまい）」は、五穀豊穰・諸業の繁栄を祈る舞で、途中餅まきが行われ会場は歓喜に湧きました。

たまたれ



雅樂 管絃

筑紫楽所は、福岡県春日市にある春日山雅楽御堂を本拠地とし、宮内庁式部職楽部の楽師の先生より直接指導を受けている雅楽演奏団体です。筑紫野市の正行寺雅楽部として昭和三十三年発足以来、神仏に捧げる雅楽の精神を受け継いで積極的に活動されています。平成五年のロンドン公演以来、海外公演にも取り組み、文化の輪を世界へと広げ、平成十六年には「第十二回福岡県文化賞・交流部門」を受賞されました。

雅樂 管絃・舞樂 筑紫樂所

五月四日(金)
午後一時

第一部 管絃（かんげん）では、「壱越調音取（いちごくちょうのねとり）」「賀殿急（かでんのきゅう）」「武徳樂（ぶとくらぐ）」が奏されました。



舞樂 陵王

「白濱」は古代朝鮮半島の地名といわれています。涼やかな水色の装束に身を包んだ四人の舞人によって舞われます。曲の中程でひざまずき、片袖を脱ぎます。これ以降が華やかな手振りで、美麗な袖を翻しながら舞台上を背合わせに、あるいは向き合つて一周する所作など、四人の舞人が見事に調和する美しい舞でした。



舞樂 白濱



「剣印（けんいん）」という形をつくって舞う姿は勇敢な王の姿を彷彿とさせるものでした。

幸若舞は室町初期ごろ、武士道鼓吹の舞曲として始まり、足利時代より織田信長、豊臣秀吉をはじめ多くの武将に愛好され、当時大いに隆盛を極めました。昭和五十一年に国指定重要無形民俗文化財の指定をうけ、現在は、みやま市の大江幸若舞保存会によつて継承され、唯一日本に現存する舞として日本芸能史の上でも極めて高く評価されています。

今回の奉祝祭では「浜出（はまいだ）」という鎌倉幕府の開設を祝つた舞が奉納されました。



幸若舞 浜出

幸若舞 大江幸若舞保存会

五月四日(金)
午後三時

たまたれ

「神幸祭」とは、高良大社の大神様をお鎮めいたしました神輿を担ぎ、高良山上から山麓の朝妻の頓宮（味水御井神社）まで練り歩き、大神様にご巡幸いただく祭典です。

中世の記録である『高良記』には、往時は勅使をもつて祭礼が行われていたことが記されており、神輿にお供する人数は千名を超える大行列を誇った当社の大礼でございます。通常は五十年に一度、三日間かけて千人前後の王朝装束を身にまとつた大行列が市内を練り歩き、華やかな王朝絵巻が現代によみがえります。

これまで、地域の皆さまから、五十年に一度ではなく今世に合った短い間隔で、というお声をいただいておりました。

そのお心を反映し、前回五十年ぶりに行なわれた平成四年から二〇〇八年の平成二十四年十月十四日、皆さまのご協力のもと、御井町・山川町・高良内町の三地区を神輿が巡る「神幸祭」を斎行いたしました。

この度、平成三十年十月十四日（日）にこの神幸祭が斎行されます。去る平成二十九年八月二十三日（水）には第一回高良大社神幸祭実

神幸祭のご案内

また今回は、矢取西交差点より御井町バス停までの巡回経路間にて、稚児行列を計画しております。歴史ある高良大社神幸祭にご奉仕いただけるまたとない機会でございまので、ご希望される方はどうぞお問い合わせ下さい。

神幸祭お問い合わせ先
高良大社社務所内
FAX ○九四二（四三）四八九三
電話 ○九四二（四三）四九三六



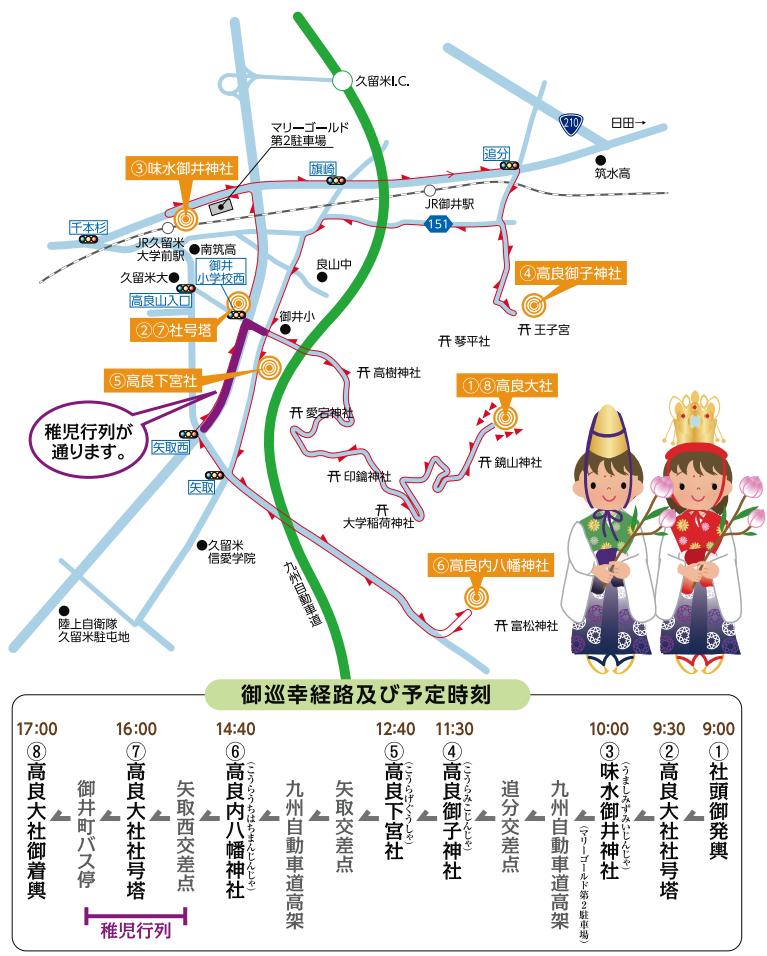
十月十四日(日) 九時～十七時

神幸祭

じん

こう

さい





○ 初穂料一冊千五百円
郵送は致しておりません
社頭のみの授与となります

新規授与品の紹介

朱印帳

この度の平成の大修理奉祝祭を記念致しまして朱印帳を新たに作製し、奉祝祭初日の四月二十八日より社頭にてお頒ちしております。

色は紺と赤の二色で藤原佐理卿筆の御神号「高良玉垂宮」と御神紋「横木瓜」が金色に輝くデザインになつております。御参拝の証として戴く御朱印。その信仰の記録としての御朱印帳です。それ故に必ず御神前を拝した上で、神様の御心がこもる御神印をお受け下さい。寺院では元々經典を書写し、それを納めた証として押印を戴いたのが始まりとされ、このことから御朱印を納経と今でも申します。今では写経を納めずとも参拝することにより印を受けることもできます。いづれにしても、スタンプラリーとは趣を異にするものです。是非新しい朱印帳を高良大社へ御参拝する毎に、或いは各お社への参拝に携帯戴き敬神の証として御朱印をお受け下さい。

特別御守

社頭では御参拝の方々の「希望に応じて御神札・御守を授与いたしております。災難や事故怪我等が無いよう紙や木製の御守を参拝の際に拝受を受けることができます。その種類も時代と共に多種多様であり、農耕で牛や馬が活躍した時代には牛馬安全の御守、車社会となつてからは車につる交通安全御守があり、今では就職や金運等の御守を授与される社寺もあります。

さてこの度の御守は通常頒布の御守より一回り大きくなり、色は紺色と赤紫色の二色であり、文様は瑞雲地に高良山の山並みを表し、御祭神三柱の御神紋を刺繡しております。お祓いの後に御本殿内へお納めし一七日間、毎日「大祓詞」を唱え祈祷を厳修します。大祓詞は古来より罪穢を祓う祝詞とされます。罪穢れ祓えれば心身共に清浄となり、私心を去つて誠の心に立ち帰り、神々に近づくことが出来、神様の御心をも和めて、悪事災難を消除し幸福へと進めるとされ、古くより御祈祷に際しても百度祓、千度祓、万度祓と称して幾度も唱えられてきました。その例にならない御祈祷致します。お受けになられる皆様の大願成就・諸願成就・邪氣退散・起死回生」を祈念し只今準備を進めております。

※授与開始は七月中旬になります。
初穂料は二千円のお納めになります。

記念誌発行される



以前より当社では由緒を求める方々にはご要望により云われを記したパンフレットを御参拝の皆様にお配りしておりましたが、「より詳しいものを」とのお声を数々戴いておりました。詳しい物になりますと『高良玉垂宮神秘書』通称『高良記』になりますが、こちらはその神秘の名の通りあまりにも専門的であり難解なものであります。

そこでこの度の「平成の大修理」を縁として、パンフレット状のものより内容を増やし、写真もできる限り載せたものをと素人ながら職員で執筆しました。内容は高良大社御祭神三座に始まり御社殿建立、彫刻。当社にまつわる信仰と年中祭事の説明。高良

資料として「高良大社一六〇〇年御神期大祭奉贊会規約」「平成の御造営奉贊会規約」「平成大修理奉贊会規約」「神階昇叙など高良玉垂命に関する文献の記載」「全国の高良神の勧請・分祀」「高良大社年表」等盛りだくさんの内容となっています。内容は高良大社御祭神三座に始まり御社殿建立、彫刻。当社にまつわる信仰と年中祭事の説明。高良

山内各所の案内として撰社末社の紹介。石造物動植物。高良山十景。御神宝の覚一本『平家物語』。山内岡、祭神縁起。『高良玉垂宮神秘書』。記念事業として平成四年「御神期大祭」の歴史。環境保全事業(平成の御造営)今回の大修理事業。

申し上げる他、地元学校や図書館に寄贈する予定となつておりますので是非お目を通して戴ければ幸いです。
※社頭では頒布しておりません。

高良山通信



高良山書道展募集要項

- 展示場所
高良大社境内

● 募集期間
平成三十年六月八日まで

表彰式典

平成三十年七月十六日（海の日）

展示期間

平成三十年七月十六日から八月

初旬、高良大社境内にて
平成三十年八月初旬から八月

中旬、久留米市内にて
詳しい要項・課題は書道展事務局まで、お問い合わせ下さい。

高良山写真展募集要項

- 出品料
無料です（但し応募作品は返却致しません）
一人三点までと致します。
版権は高良大社に帰属します。



第六回写真展 宮司賞「まほろば」

● 詳しくは、写真展事務局まで、お問い合わせ下さい。

- 表彰式典
平成三十年十月中旬まで
- 展示期間
平成三十年十月下旬から
十一月下旬

崇敬会入会のご案内

自然豊かな高良山に鎮座する高良大社は、高良玉垂命・住吉大神・八幡大神の三柱を祀る、筑後国一之宮であり、その歴史は、古く御創建は西暦四〇〇年頃と伝えられています。また、高良大社には、国指定重要文化財など宝物、史跡が大切に護られて居ります。その祖先より受け継がれてきた歴史と郷土遺産を守り後世に伝えるための本会の趣旨にご賛同いただき、ご入会下さいますようご案内申し上げます。

今年の四月に奉職して、舞を教えていただき、実際に舞つてみると腕の高さや、姿勢を保つ事など気を付ける点が多く、私が思っていたよりもとても難しかったです。これからたくさん練習を積み重ね美しく出来るよう頑張りたいと思います。夏には舞の講習会があるので、日々の練習を頑張り、いろいろな舞を早く覚えたいと思います。（樋口）

個人会員
正会員 三、〇〇〇円以上
法人会員 一〇、〇〇〇円以上

個人会員
正会員 一〇、〇〇〇円以上
法人会員 三〇、〇〇〇円以上

個人会員
正会員 一〇、〇〇〇円以上
法人会員 三〇、〇〇〇円以上

- 会員接遇
毎朝の日供祭にて会員皆様のご安泰ご隆昌を祈願致します
- 特別参拝が出来ます
- 崇敬会大祭に御案内致します
- 会主催の行事に御案内致します
- 高良大社宝物館を拝観出来ます

お問い合わせ先
高良大社崇敬会事務局
○九四二一四三一四八九三

鎮守の杜

「たまたれ」
（通巻四十号）
平成三十年六月一日発行
発行者／高良大社社務所
福岡県久留米市御井町一番地
電話○九四二一四三一四八九三
FAX○九四二一四三一四九三六

職員異動

〔退職〕
録事 本多 晴美
平成三十年三月三十一日付

〔奉職〕
巫女 樋口 寧々
嘱託 松本 守久
嘱託 川島 しおぶ
嘱託 本多 晴美
各平成三十年四月一日付